

芦北町立佐敷中学校

(平成26・27年度文部科学省・熊本県教育委員会指定 人権教育研究指定校)

I 研究の概要

1 研究主題

進んで実践、発信し、自他を大切にすることができる生徒の育成
～「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を連動させた取組を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

1948年、国連総会において世界人権宣言が採択され、その後今日に至るまで人権に関する様々な条約が採択されてきた。そして「人権の世紀」と呼ばれる現在、人権保障のための国際的努力がますます重要となっている。しかしながら、「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成14年3月閣議決定）でも指摘されるように、生命・身体の安全に関わる事象や不当な差別など、今日においても様々な人権問題が生じている。特に、次世代を担う児童生徒に関しては、各種の調査結果に示されているように、いじめや暴力など人権に関わる問題が後を絶たない状況にある。一方、学校教育における人権教育の現状に関しては、教育活動全体を通じて、人権教育が推進されているが、知的理解にとどまり、人権感覚が十分身に付いていない等の指導方法の問題がある。また、教職員においては人権尊重の理念について十分な認識が必ずしも行き渡っていない等の問題もあげられており、人権教育に関する取組の一層の改善・充実が求められている。

こうしたことから、一人一人の人権が尊重される環境を整え、互いのよさや可能性を認め合い、自他を大切にすると人権尊重の精神に立った学校づくりを進めていくことが大切である。

(2) 本校の今までの研究から

平成23年度、平成24年度「不登校の予防・解消につながる児童・生徒のよりよい人間関係づくり」という研究テーマで、生徒の伸ばしたい力を8つ設定し、集団づくり、人間関係づくりを研究内容とし、様々な交流を通して豊かな人間関係を育むことをねらいとした研究に取り組んだ。また、平成25年度は、心の教育、健康教育を土台とした確かな学力の保障を目指し研究してきた。ある程度の成果を収めつつも、自分から積極的に、様々な活動に取り組む生徒の育成、さらに、自分の考えを堂々と発表できる生徒の育成には及ばない点があった。そこで、人権教育を一層充実させることで、本校の人権教育の視点にある「人権感覚」、「実践力・発信力」を、重点的かつ系統的に育成するために、平成26年度より学校全体として研究に取り組むこととした。

(3) 生徒及び学校の実態から

本校では、規律ある態度や身だしなみの徹底、さわやかなあいさつ、大きな声での返事、後片付けをはじめとした整理整頓など基本的な生活習慣が身に付くように指導している。しかし、基本的な生活習慣が十分定着しているとは言えず、主体的に取り組む

姿にやや欠ける。特に、理解できていることを行動に移すことができない生徒が多く見られる。

平成26年度の取組を通して、生徒アンケートでは、「あなたは先生からほめられたことがありますか」の項目で、ポイントが上昇した。これは、生徒の発言を受容的・共感的に受け止め、認め・ほめ・励ましたことによるものと考えられる。さらに「道徳の授業ではいろいろな立場に立って考えていますか」の項目でもポイントが上昇し、人間関係づくりにおける、生徒同士のつながりをつくる取組の成果と考えられる。しかし、「学校では明るく楽しく過ごしていますか」の項目において、ポイントが下降し、人権感覚を育成する上で重要である支持的風土の醸成がまだ十分ではないと考えられる。さらに「授業の中で自分の考えを表現していますか」の項目もポイントが下降した。生徒同士が互いに自分の思ったことを伝え合うことが十分にできないことが、授業中に自分の考えに自信を持って発表できない要因の1つになっていると思われる。また、昨年度は大野中学校との統合や特別支援学級の増設もあり、より一層自他を大切にすることができる心情や態度が重要になってきた。このような実態を踏まえ、本校では生徒を互いに「つなぐ」ことで、研究テーマにせまることができると考えた。

3 研究の仮説

「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」の「人権尊重の視点に立った学校づくり」において、「人権が尊重される学習活動づくり」、「人権が尊重される人間関係づくり」、「人権が尊重される環境づくり」を相互的に推進し、様々な場面において人権感覚と実践力を養うことが求められている。

本校では、生徒の実態を踏まえて、「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」の3つの柱により仮説を設定し、総合的に人権教育を推進する。

〈 仮説①「人権が尊重される学習活動づくり」 〉

授業において、「各教科の目標」と「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の相関を図り、それぞれの授業に位置づけ、「人権が尊重される授業づくりの視点」をもって、一人一人を大切にしたい授業づくりを行えば、自尊感情が高まり、お互いを認める態度や学習意欲の向上が見られ、確かな学力と豊かな人権感覚が身につくであろう。

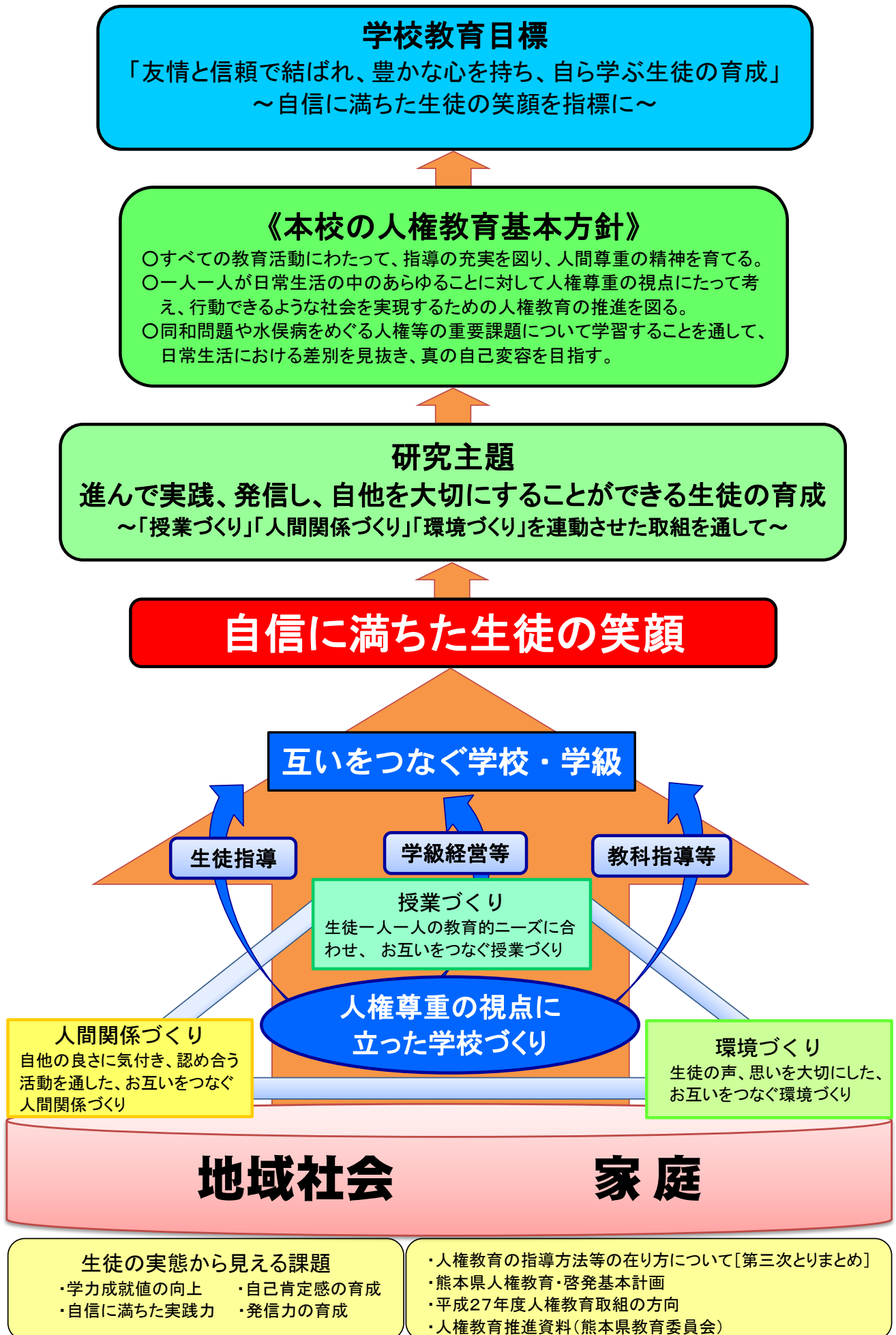
〈 仮説②「人権が尊重される人間関係づくり」 〉

様々な体験活動において、自他の良さや違いを認め合える交流を工夫すれば、適切なコミュニケーション能力が高まり、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性が育まれるであろう。

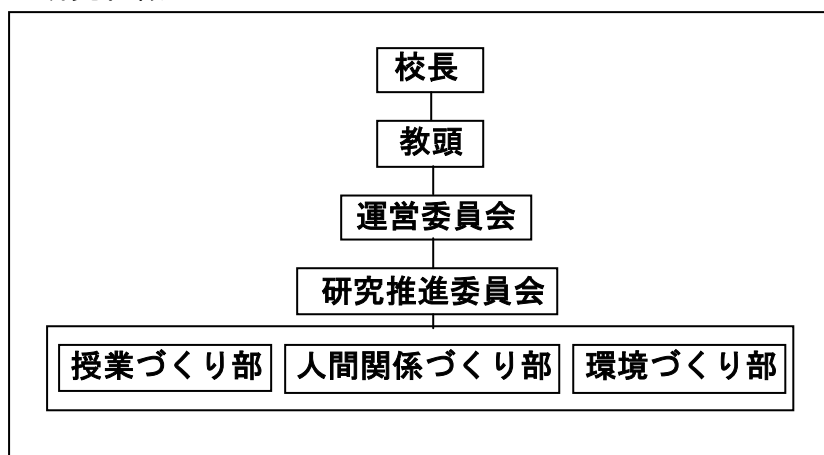
〈 仮説③「人権が尊重される環境づくり」 〉

教室を中心として、学校内の各場所において、生徒の声や思いを尊重し、自他の大切さが認められる環境を整備すれば、お互いを認め、大切にしようとする雰囲気醸成され、自己肯定感が高まるであろう。

4 研究構想図



5 研究組織



6 各部の研究内容

(1) 研究推進委員会

- ア 研究の方向性検討、研究の組織づくり
- イ 研究計画の作成
- ウ 研究進捗状況の確認、軌道修正、年間計画の見直し
- エ 先進校視察、各研修会参加及び復講の計画
- オ 研究のまとめ
- カ 次年度研究の方向性提案

(2) 授業づくり部

お互いを認める態度や学習意欲の向上を図り、確かな学力と豊かな人権感覚を身につけるために、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」をそれぞれの授業に位置づけ、お互いをつなぎ、一人一人を大切にしたい授業づくりについて研究する。

- ①生徒の課題の把握と個に応じた指導法
- ②考えや意見を交流し、練り合う授業づくり

(3) 人間関係づくり部

他者の気持ちを想像する力やコミュニケーションの技能を高め、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育むために、自他の良さや違いを認め合える交流や地域・校種間との交流等でお互いをつなぐ人間関係づくりについて研究する。

- ①人間関係づくりのためのスキル学習の充実
- ②充実感や達成感を味わえる体験活動の推進

(4) 環境づくり部

お互いを大切にしようとする雰囲気醸成し、自己肯定感を高めさせ、安心して過ごせる環境を整えるために、自他の大切さが認められ、お互いをつなぐ環境づくりについて研究する。

- ①個人の感想や考えを共有する掲示
- ②心に響く掲示・放送などの言語環境づくり

7 研究の経過及び今後の予定（人権教育に関するものを抜粋）

平成26年度 佐敷中学校人権教育研究事業

月	日	曜	研修内容	検証改善
4	7	月	特別支援教育共通理解	
	9	水	研究テーマ確認、部会、職員の目標設定	目標設定
	30	水	研究テーマ、仮説の確認、学校経営の説明(第1回小中交流準備)	
5	7	水	理論研究、年間指導計画の作成説明	
	28	水	※学級集団アンケート①の分析→対応策(個別、集団)検討	学級集団アンケート①
			◆アンケート①実施(28日)→分析→目標設定→生徒自己評価票作成	アンケート①
6	11	水	模擬授業①「授業研究」(山崎教諭)	
	24	火	第1回小中交流会	第1回交流会振り返り
	25	水	研究授業①(山崎教諭)「1年数学」◆講師招聘	研究授業①
7			◆アンケート②実施(16日)→分析→目標設定	アンケート②
8	21	木	水俣病現地研修(講話)「水俣病資料館訪問」	
	27	水	人権教育指導者研修復講、人権教育の視点に立った授業づくり	
9	3	水	模擬授業②「授業研究」(小島教諭)「3年英語TT」、2学期の取組確認	
	10	水	生徒指導カウンセリング研修(学校支援アドバイザー)	
10	8	水	研究授業②(小島教諭)「3年英語TT」◆講師招聘	研究授業②
	22	水	第2回小中交流会	第2回交流会振り返り
			アンケート③実施(27日)→分析→目標設定	アンケート③
11	5	水	「職員の人権感覚及びケーススタディ」◆講師招聘	
12	3	水	指導案検討会(中間発表研究授業)	
			中間発表会へ向けてのまとめ	成果と課題分析
1	14	水	※学級集団アンケート②分析(12月実施分)◆講師招聘(教育評価研究所)	学級集団アンケート②
	28	水	中間発表会(公開授業)	公開授業
2	10	火	人権教育研究指定校成果報告会	
3	11	水	研究のまとめ、次年度に向けて	目標達成状況確認

※学級集団アンケート…学級集団の傾向を把握するためのアンケート

平成27年度 佐敷中学校人権教育研究事業計画

月	日	曜	研修内容	検証改善
4	7	火	生徒理解、研究についての共通理解	
	8	水	研究テーマ、実施計画の確認、本校生徒の課題について	目標設定
	15	水	各部会のメンバー、研究内容確認	
5	20	水	理論研究、各部会取組内容の共通理解、学習の手引き作成	
	26	火	研究授業(後藤教諭)「全学年体育」	研究授業①
	27	水	※学級集団アンケート分析(4月実施分)、人権学習指導計画の作成	※学級集団アンケート①
			◆アンケート①実施→分析→目標設定→生徒自己評価票作成	アンケート①
6	10	水	理論研究、授業デザイン及び共通実践事項	
	23	火	小中交流会	交流会ふり返り
	24	水	研究授業(中村教諭・前田教諭)「2年理科」◆講師招聘	研究授業②
7	8	水	研究授業(泉保教諭)「2年美術」	研究授業③
	15	水	研究授業(米村教諭)「3年道徳」◆講師招聘	研究授業④
			◆アンケート②実施→分析→目標設定	アンケート②
	23	木	各部会の検証、まとめ(紀要原稿作成)	
	27	月	振り返り総括、研究のまとめ作成	
	30	木	指導案検討①	
8	21	金	水俣病現地研修(講話)	
	26	水	2学期の取組確認、紀要原稿チェック①	
9	2	水	理論研究◆講師招聘	
	9	水	紀要チェック②、研究発表全体会・各部会発表の内容確認、授業準備①	
	10	木	研究授業(山崎由教諭・山崎知教諭)「3年数学」	研究授業⑤
	30	水	研究授業(渡邊教諭)「1年社会」	研究授業⑥
10	7	水	発表原稿、発表内容チェック、授業準備②	
	9	金	研究授業(矢野教諭)「1年国語」	研究授業⑦
	14	水	研究授業(米村教諭)「3年道徳」	研究授業⑧
	20	火	研究授業(後藤教諭)「2年特活」	研究授業⑨
	21	水	研究授業(志水講師)「3年音楽」	研究授業⑩
	22	木	研究授業(山崎知教諭・山崎由教諭)「2年数学」	研究授業⑪
	28	水	人権教育研究発表会	公開授業
11	4	水	研究発表会反省	
	25	水	今後の研修の方向性について	
12			◆アンケート③実施→分析→目標設定	アンケート③
1	13	水	※学級集団アンケート②分析(12月実施分)◆講師招聘(教育評価研究所)	※学級集団アンケート②
2			◆アンケート④実施→分析→目標設定→生徒自己評価票作成	アンケート④
	10	水	人権教育研究指定校成果報告会	
3	10	水	研究のまとめ、次年度に向けて	目標達成状況確認

※学級集団アンケート…学級集団の傾向を把握するためのアンケート

II 研究の実際

1 本校における人権教育を通じて育てたい資質・能力とその具体化

[第三次とりまとめ]には、「人権教育は、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として、意識、態度、実践的な行動力など様々な能力を育成し、発展させることを目指す総合的な教育である」と示されている。

そこで本校では、[第三次とりまとめ]を参考に、人権教育を通じて育てたい資質・能力とともに、生徒の実態を考慮し、「具体的な生徒の姿」を設定した。すべての教育活動において意識して指導している。

は本年度の重点目標

側面	[第三次とりまとめ]から	資質・能力	具体的な生徒の姿(伸ばしたい力と心)
① 知識的側面	ア 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解	人権尊重の概念がわかる。	個性を尊重し、認め合い、支え合うことの大切さがわかる。
	イ 人権の発展・人権侵害に関する歴史や現状に関する知識	人権の諸問題に関する知識がわかる。	水俣病をはじめ、様々な差別の歴史を理解し、人権に関する現状や法令などがわかる。
	ウ 憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識		
	エ 自尊感情・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識	人権課題の解決に関する知識がわかる。	いじめや差別の解消のために、どのように行動すればよいかわかる。
オ 人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関についての知識 等			
② 価値的・態度的側面	ア 人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚	自分や他人のよさを認め合おうとする。	自分と他人の考えを尊重しながら、さまざまな課題解決について協同して解決しようとする。
	イ 自己についての肯定的態度		
	ウ 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度		
	エ 多様性に対する開かれた心と肯定的態度	理想を目指し、主体的に社会を向上させようとする。	さまざまな立場の人の思いを受け止めて、差別に負けない気持ちを持ち、学校生活や地域社会をよりよくしていこうとする。
	オ 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度		
	カ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度		
	キ 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度		
ク 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度			
③ 技能的側面	ア 人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能	お互いの違いを認め、尊重できる。	自分と違った考えをしっかりと聞き、人のよさを認めることができる。
	イ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性	豊かな感性で、他者のことに共感できる。	人が発言するときに、どのような思いか、相手の立場に立って考えることができる。
	ウ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能	能動的に傾聴し、思いや考えを伝え合うことができる。	相手意識を持って伝え、受容的な態度で聞き、学び合いができる。
	エ 他の人と対等で豊かな関係を築くことができる社会的技能	相手の立場に立って考え、行動することができる。	相手の立場に立って、意見や考えを伝え合うことができる。
	オ 人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能	様々な差別や偏見を見抜くことができる。	差別や偏見に対して差別であることを根拠をもとにはっきりと述べることができる。
	カ 対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能	協力的な話し合いによって問題を解決できる。	前向きな意見を出し合い練り合うことで、高め合うことができる。
	キ 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 等	複数の情報を科学的に判断し、公平な結論に達することができる。	さまざまな意見を聞き、それぞれの意見のよさを生かした結論を考えることができる。

2 授業づくり部の取組 [人権が尊重される学習活動づくり]

(1) 生徒の課題の把握

ア 一人一人を大切にす(個に)応じる) という観点から

- 標準学力検査の結果から考察すると、総合学力平均はほぼ全国標準に等しく、前年度に比べ伸びてきている。
- 学力成就値を見ると、学業不振と思われる生徒は全体の半数ほどであり、全体的に学業の促進、学習への志向性を高める必要がある。
- 各調査の結果から、家庭学習時間が少なくゲーム等に多く時間を費やしていることが分かる。そのようなことが学習への志向性の低さに影響していると考えられる。

イ 互いに支え合う集団づくりの観点から

- 「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」の結果、全学年において「学級生活満足群」の割合が全国平均を大きく上回っており、「侵害行為認知群」「学級生活不満足群」も全国平均と比べても少ないが、「非承認群」が多い。全体的に学級内で認められる経験が少なく、自己肯定感、自己有用感が低いと考えられる。

本校の学力面の大きな課題として、学業不振生が多いこと、学習への志向性が低いことに着目し、一人一人を大切にす(個に)応じる) という観点と互いに支え合う集団づくりの観点から取り組んだ。

(2) 個に応じた指導法

授業において個に応じた指導に力を入れ、生徒一人一人の自信を高め、学習意欲を伸ばしていくことが重要になってくる。

そこで、一人一人を大切にす(個に)応じる) 指導を充実させるため、本校では、各授業において次のような取組を行っている。

ア 一人一人に考えを持たせる工夫

授業にクラス全員を引き込んでいくためには、一人一人が自分の考え(根拠)を持てるような発問、指示を行う必要がある。たとえ学力的に厳しい生徒であっても自分の考えを少しでも書けるよう、生徒の立場に立って十分吟味された発問や指示をする。それでも自分の考えが書けない生徒については、補助発問を工夫したり、考えをもてるように時間を確保したりするなどの支援を行う。

イ 全員の学びをそろえる工夫

本時の学習課題(中心課題)についてはクラス全員がスムーズに取り組めるようにしたい。しかし、その課題に取り組むために必要な既習事項があまり身につけていない生徒がいたり、やり方がよく分かっていない生徒がいたりするのが現状である。そこで、その課題に取り組むために必要な既習事項について復習したり、やり方の例を示したりすることにより、学びをそろえる活動を行う。

ウ 自己選択の場の設定

授業の中では、自己選択の場をできるだけ設定するようにする。たとえば「A、B、Cのどの方法で問題を解く？」などと問いかけ、生徒に自分の立場を選択させる。その後、自分の立場をもとに、より自分の考えを深めたり、他者の考えから学んだりすることを通して、授業に参加しているんだという実感をもたせていく。

エ 間違いを大切にした指導

生徒の具体的な間違いの例はクラス全員にとって非常に良い学習の機会となるが、教師の取り上げ方によってはその生徒が自信をなくしてしまう可能性も考えられる。決してそういうことにならないよう、「このように書いた気持ちは分かるよね」「ここまではとてもよくできているよ」「この例からみんな大事なことを学んだよね」「とてもいい例だよね」などの言葉かけを行い、間違いを大切にした指導を行う。

オ 発表しやすい雰囲気づくり

生徒の声で授業をつくることを目指し、できるだけたくさんの発表の機会をつくりたい。しかし、生徒の中には発表に関してなかなか自信が持てず、自ら積極的にそれができない生徒もいる。そこで、生徒に発表させる前に、できるだけ生徒同士の確認の時間を取る。また、教師も机間指導を行い、生徒のノート等を見て「とてもいいことを書いているから、ここをあとで発表してね」などと声かけを行って自信を持たせ、その後の全体発表へつなげる。

カ TTの効果的な活用

T2の授業への関わり方について次のように工夫し、TTによる授業をより効果的に行う。

- ・具体例を示す役割
- ・ヒントを与える役割
- ・説明補助の役割
- ・生徒の考えを把握する役割
- ・板書の役割（T1が説明、指示、発問）
- ・個別支援の役割
- ・評価の役割 など

キ 学習支援員による支援

学力的に厳しい生徒には学習支援員が適宜近くに付いて、学習活動に関するアドバイスや基礎的基本的な事項の復習、ノートの書き方等いろいろな支援を行っている。

ク 個人差に応じた定着問題

授業終末の定着問題や授業後の宿題において、コース別問題を提示するなど、工夫を行っている。

(3) 考えや意見を交流し、練り合う授業づくり

本校では、互いに支え合う集団づくりを通して、互いを認め合い、自己肯定感、自己有用感を高める指導を充実させるため、各授業において次の

ような取組を行っている。

ア 授業形態を工夫してつながりをつくる取組

①ペア学習

隣同士のペア、前後のペア、列をずらしてのペア、列ごと移動してのペアなど、より多くの生徒同士が交流し合う場面をつくる。

②グループ学習

4人班を基本とし、各自に役割をもたせて学びを深めさせる。

③全体関わり学習

クラス全体でそれぞれ交流し合う学習で、生徒は全員起立し、動いて交流する。授業者は全体をよく見ておき、うまく交流ができていないところにはアドバイスをを行う。

イ 生徒の発言の場を工夫してつながりをつくる取組

①発言する生徒

生徒は、授業者の指示に応じて体の向きや発言する位置を変え、発言の後、必要に応じて「…と思います。どうですか?」と全体に確認する。

②発言を聴く生徒

発言を聴く生徒は、移動した発表する生徒の方に体ごと向ける。

③授業者

発言する生徒に目を向けるだけでなく、発言を聴く生徒全体にも目を向け、集中して聴くことができているか確認の上、発言させる。

(4) 授業デザインの作成と活用

学習を深め、より確実な定着を図るためには、考えや意見の交流を通して効果的な練り合いを行っていくことが大切である。本校では、全教科で共通して取り組めるよう、生徒一人一人を大切にしたい授業デザインを作成した。[資料1]

芦北町立佐敷中学校
生徒一人一人を大切にしたい

授業デザイン

授業の進め方

～思考の流れを大切に、学ぶ意欲を引き出す～

●生徒を授業に引き込む導入

前時の復習をペア学習で行うなど、生徒が自然と授業に引き込まれていくよう工夫する。

●「めあて」の提示

「まとめ」に対応するような疑問形の「めあて」を、できるだけ生徒の声から引き出す。

●学び合い「観戦」

一人一人の生徒に確実に自分の考えを持たせられるような発問を行う。

●学び合い「比較・交流」

出されたいくつかの意見をもとにその共通点や相違点を話し合い、学習を深める。

●「まとめ」の確認

「めあて」からつなげ、できるだけ生徒の言葉でまとめる。

生徒の発言を引き出す工夫

～生徒の声で授業をつくる～

●生徒が「予想する」「想像する」授業

T「この資料からどんなことがわかるかな？」

T「このあとどう変化していくだろう？」

T「気づいたこと、感じたこと、考えたことを書いてみよう。」

●生徒が「意見を述べ合う」授業

T「書いていることを発表しよう。」

T「なるほど、・・・と考えたんだね。（違う方向を向いて）どう？」

T「どうしてそう考えたの？」

T「同じ（違う）考えの人はいるかな？」

●生徒が「説明する」授業

T「考えをまとめるとどうなるのかな？」

T「今日学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。」

生徒同士のつながりをつくる取組

～お互いに関わり合うことで学習を深める～

●授業形態を工夫してつながりをつくる取組

①ペア学習

（既習事項の理解を確認するため）

②グループ学習

（いくつかの意見をまとめるため）

③全体関わり学習

（より多くの考えに触れさせるため）

●生徒の発言の場を工夫してつながりをつくる取組

①発言する生徒

・クラス全体を見渡して発言させる。

②発言を聴く生徒

・発言する生徒の方に体ごと向けて聴く。

③授業者

・発言を聴く生徒全体に目を向け、聴く姿勢ができていないか確認する。

・ペア学習で一人をつくらない。

板書・その他について

～常に生徒一人一人を大切に作る姿勢をもつ～

●板書について

・構造的に整った板書を行い、基本的に1度書いたものを消してさらに書くことがないようにする。

・できるだけ書く時間と聴く時間を区別する。

・生徒の声をできるだけ多く取り上げた板書を行う。

・重要語句は黄色で、アンダーラインや囲みは赤で書く。

・教室のどの場所からも見やすい文字で書く。

・正しい文字を正しい筆順で書く。

●その他について

・生徒を「～君」、「～さん」付けて呼ぶ。

・欠席者への配慮（机上にプリントを置きっぱなしにしない、等）を行う。

・家庭学習の評価を必ず行う。

この授業デザインを基本に、授業形態や生徒の発言の場を工夫しながら、全職員で授業実践を行っている。

(5) 研究授業の実際

ア 第2学年理科 単元名 単元1「化学変化と原子・分子」

題材名 3章「化学変化と物質の質量」(大日本図書)

化学変化に関する物質の質量を測定する実験を行い、反応の前後では物質の質量の総和が等しいことを見いだす活動において、自分の考えた実験方法をペアや班で説明し合ったり、自分と他人の考えを交流したりすることで、相手の考えの良い点を認め、違いを尊重できる技能を身に付けることができた。

◆人権教育を通じて育てたい資質・能力

○実験方法を出し合う場面において、相手の考えを受け止めたり、自分の考えを素直に伝えたりすることができる。(技能的側面ーウ)

◆人権が尊重される授業づくりの視点

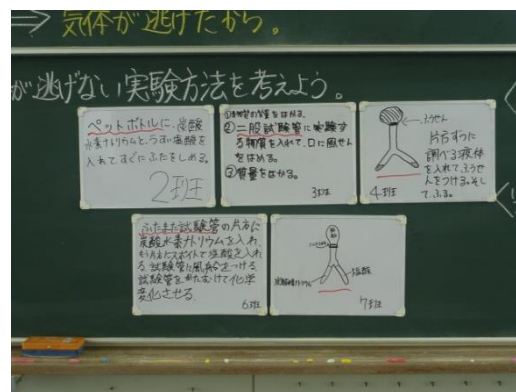
○多種多様な実験道具を準備し、生徒の考えた方法に可能な限り対応できるようにする。(自己選択②ーア)

◆本時における個に応じた指導

- 質量が変化してしまった実験方法については、閉鎖系を生徒に意識させる機会と捉え、どのように改善すれば質量が変化しないのかアイデアを出し合う場面を設けた。(④間違いを大切にした指導)
- T2が演示実験を行い、具体例を示すことで質量が変化しないという見通し(予想)をもたせた。(⑥TTの効果的な活用)

◆本時における考えや意見の交流、練り合いの場面

○ペアで実験方法を説明しあったり、班の中や他の班と実験方法を交流し合ったりすることで、自分や自分たちで考えた実験方法の良いところや改善点に気づかせた。



イ 第2学年美術 題材名「驚きの世界へ」(開隆堂)

互いのアイデアを見せ合い、表現の工夫について話し合いながら協同でひとつの画面を作り出す活動において、自分と他人の考えを交流しお互いの違いを認め、尊重できる技能を身に付けることができた。

◆人権教育を通じて育てたい資質・能力

- 課題に対する自分の考えをしっかりと持ち、それをペアでひとつの画面に練り上げ、全体での交流の中で発表する。併せて、ペアや全体での交流の中で出てきた他の意見についても傾聴し、尊重しながら表現の構想を深める。：自他の価値を尊重しようとしながらさまざまな課題解決について協同して解決しようとする意欲や態度(技能的側面－ウ、価値的・態度的側面－ウ)

◆人権が尊重される授業づくりの視点

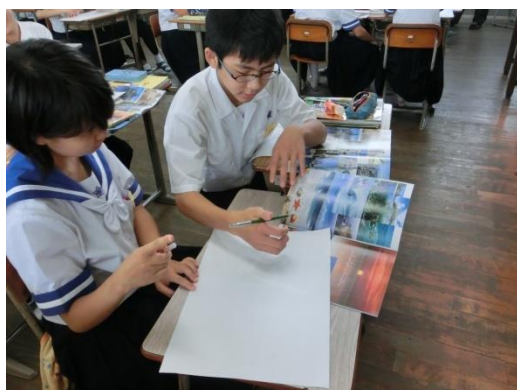
- 全て自分で考えるもの、写真を組み合わせるもの、半分を自分で考えるものと選択できるようにする。(自己選択②－ア)

◆本時における個に応じた指導

- 期末テストでの友達の模範解答のスライドを見て、既習事項と本時の課題を確認した。(①一人一人の学びをそろえる工夫)
- 授業の導入時に、シュルレアリスムの作品を半分ずつみせて、変化する様子を予想させ、想像の世界のおもしろさを味わわせ意欲を高めた。(②一人一人に根拠を持たせる工夫)
- 自分の習熟の度合いや興味・関心に基づいて、写真集や資料などの教具を選択できるようにした。(③自己選択の場の設定)

◆本時における考えや意見の交流、練り合いの場面

- 同じ主題でも相違点を見つけたり、違う主題でも共通点を見つけたり、自分に足りなかった要素や表現の工夫に気づいたりすることで相手のアイデアを認め合わせた。また、一つの作品に仕上げる過程で互いの発想を伝える中で、取捨選択しながらよりよい作品になったことを実感させた。



ウ 第3学年道徳 資料名 「ふきのとう」(教育出版)

価値項目1-(5) 生き方の追求

この学習において、自己を振り返り、肯定的に捉える姿勢をもつことで、他者を認め、よりよい生き方を追求する態度を身に付けることができた。

◆人権教育を通じて育てたい資質・能力

- 自己を振り返り、肯定的に捉えることができることによって、他者を認め、いじめや差別を解消していく：自己についての肯定的態度(価値的・態度的側面一オ)

◆人権が尊重される授業づくりの視点

- 生徒の学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題(教材)を複数準備したり、ヒントカードを与えたりする。(自己存在感①ーウ)

◆本時における個に応じた指導

- 登場人物の心情や自分の心情を考えるにあたり、あまり得意としない生徒も自分の考えをもって臨めるように、心情円盤を利用した。(③自己選択の場の設定)
- 全体の前で考えを発表することが苦手な生徒も自分の思いを伝えることができるよう、ペアでの交流活動を設定した。(⑤安心して発表できる雰囲気づくり)

◆本時における考えや意見の交流、練り合いの場面

- 自分のこれからの生き方について考えたことを、ただ伝えるだけではなく互いに認め合うことができるように、相手の考えに対して「返し」を付箋に書き、伝え合う活動を取り入れた。



(6) 研究授業・授業研究会の工夫

研究授業・授業研究会を充実させるために、次の点に取り組んでいる。

ア 授業参観シートの工夫

- ・人権教育を通じて育てたい資質・能力について、授業者が意識した授業ができるように、参観者も意識しながら参観できるように、授業参観シートの冒頭に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を明記した。また、授業の見所が分かるように「ポイント・見所紹介」の欄を設けた。
- ・授業者の思いに参観者が共感し、集団としての取組の方向性が揃うように、「自分の教科にこの授業の要素を取り入れるとしたら、どんな取組ができそうか。」という項目を設け、参観者がそれぞれの立場で授業する際の工夫を考える場面を設定している。
- ・全職員が「学習者五か条」を意識した授業ができるように、参観シートの最後に「学習者五か条」についての記入欄を設け、記入後は当該学級の担任に切り取って渡せるように工夫している。[資料2]

H27校内研修 授業参観シート	
	参観者()
0 授業者(泉保先生)からの授業のポイント・見所紹介 ◆◆事前に記入◆◆	
■育てたい資質・能力: 能動的に傾聴し、思いや考えを伝え合うことができる。(技能的側面 -ウ)	
■授業のここを見て!: 個別で考えたアイデアをもとに、ペアで練り合いながら1つの作品 に仕上げていく過程	
1 授業者は、「授業デザイン」を意識して授業していたか。	
○(意識できていたところ)、△(もう少し意識した方がよいところ)	
○ICTを利用して 見やすく 配慮した	
○ペア学習で生徒同士のつながりを促していた (認め合い、発想のよさなど)	
△時間的に 短かった	
2 自分の教科にこの授業の要素を取り入れるとしたら、どんな取組ができそうか。	
○資料の用意で子どもが思考しやすくなることのできる 適切な	
・ペア学習により 比較、交流を行う。	
3 授業や授業研究会全体を通してのご意見・ご感想	
・スムーズな形で 雰囲気の良い 作品作りの中で 様子 がうかがえた。 授業者	
・時間をどうおさめたいか、考えたい 必要が あり 思えた。	
----- (切り取り線) -----	
4 生徒は、「新・学習者五か条」を意識して授業に参加していたか。	
○(意識できていたところ)、△(もう少し意識した方がよいところ)	
○始める前に 17分 座り 学習用具も きちんと 確認した。	
△発表の仕方、自信をつける 必要が あり	
※授業参観後(大研は授業研究会終了後)、授業者の先生にお渡し下さい。	
大変 ありがとうございました。	

資料2 授業参観シート

イ 授業研究会の工夫

- ・「人権が尊重される授業づくりの視点」を意識しながら研究授業を参観できるよう、成果と思われるものを青の付箋紙に、課題と思われるものを赤の付箋紙に、気づきを記入した。
- ・授業研究会の協議では、各部会に分かれて意見交換を行った。意見交換の際は、これまでのどんな取組がその成果につながったかを青の付箋紙に、課題克服のために必要な取組を赤の付箋紙に分けて記入し、拡大指導演に貼り付けながら意見交換を行った。【写真1】
- ・各部会で話し合われた内容を全体で共有するため、協議後に各部会からの発表の時間を設けた。その中で課題としてあげられた事象については、3つの部会で連動して解決するように心がけた。発表した生徒への返しがうまくできていないという課題に対して、授業づくり部ではマニュアルを作成すること、人間関係づくり部ではスキル学習で相手に必ず反応すること、環境づくり部では掲示物へのコメントを入れることで生徒への返しができるようにした。



写真1 意見交換の様子

3 人間関係づくり部の取組 [自他の良さに気づき、認め合う活動を通した、お互いを つなぐ人間関係づくり]

(1) 人間関係づくりのためのスキル学習の充実

ア 「心のきずなを深める生徒サミット」(人権集会)の開催と人権宣言作成

心のきずなを深める月間の取組の一つとして、佐敷中学校のすべての生徒が安心して学校生活を送れるように、いじめ・差別のない明るい学校づくりを推進するため「心のきずなを深める生徒サミット」の名称で人権集会を実施した。[写真3]



写真3 人権集会の様子

佐敷中学校人権宣言作成に至るまでにできるだけ多くの生徒の意見を反映した人権宣言になるように次のような流れで人権集会を実施した。

- ① 全校生徒による人権標語の表彰
- ② 佐敷中学校人権宣言の発表
- ③ 学級ごとに作成した人権宣言の発表
- ④ 人権啓発DVD「心のキャッチボール」の視聴
- ⑤ 人権擁護委員の方のお話
- ⑥ 生徒サミット実施後の感想書き



写真4 付箋紙を活用した話し合い

③の学級ごとの人権宣言作成については、できるだけ多くの生徒の関わりをもとに作成するために、付箋紙を利用して、学級の人権意識について（よいと思うこと、まだまだ不十分と思うことなど）の個人の考えを出し合い、班での話し合いを取り入れ、学級全体での意見交換を通して学級人権宣言を作成した。[写真4]

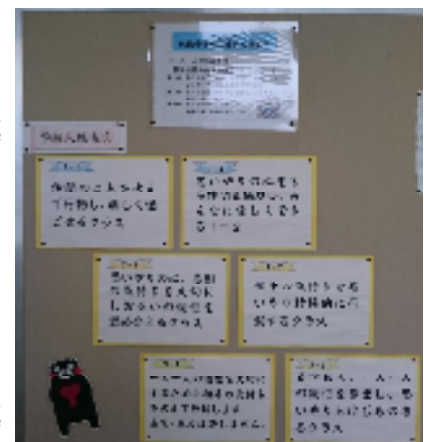


写真5 学級及び学校の人権宣言

作成した学級人権宣言は、教室前面の壁や廊下に掲示するようにした。[写真5]

また、昨年度、この「心のきずなを深める生徒サミット」で発表してもらった学級人権宣言を参考にして、生徒会執行部で佐敷中学校人権宣言案を作成した。今年度は、全校生徒に昨年度の人権宣言案への意見を聞いて、最終的に次のような佐敷中学校人権宣言を決定した。

「一人一人の笑顔を守り、個性を認め合える佐敷中学校にしよう。」

第1条 私たちは「しない、させない、見過ごさない」のいじめ防止三原則を守ります。

第2条 私たちは思いやりの心を持ち、いじめを絶対に許しません。

第3条 私たちはみんな仲間です。仲間の輝く笑顔を増やします。

イ 学級委員会によるアンケート「学級生活はどうか？」の実施と活用

学級委員会の取組として、アンケート（12項目）を隔月に1回実施し、集計結果を帰りの会等を利用して知らせている。[写真6]

また、校内研修時に職員にも学級ごとの集計結果やこれまでの変容を提示し、学級経営に生かしてもらうようにした。アンケート項目の中でも、特に次の3点を重点項目に定め、達成率90%以上を目標に共通理解を図っている。

- ① 学級の生活は、明るく楽しい。
- ② 級友とは、だれとでも仲良くしている。
- ③ 学級人権宣言を意識した学級生活を送っている。

アンケート結果を掲示することで、生徒の学級所属意識を高め、生徒同士のよりよい人間関係の構築に寄与できるのではと考えている。[写真7]



写真6 学級委員会の結果報告

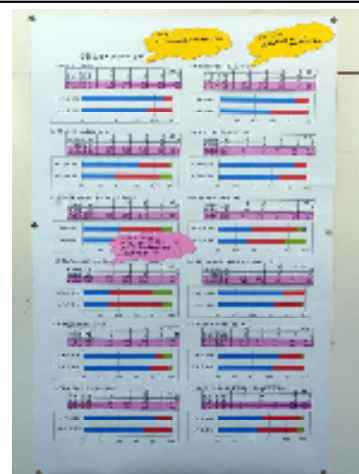


写真7 アンケート結果の掲示

ウ 専門委員会による全員発表

毎月行われる生徒集会では、年間目標をもとに、各委員会から、全校生徒への啓発を含めた生徒発表を行っている。全校にわかりやすい発表となるよう、一人一役を担いながら、委員会の特色を活かした発表を心がけている。練習から当日の発表に至る過程において、異学年の生徒同士の関わりがよりよい人間関係を学ぶ場となった。また、その役割を果たすことで責任感や自己有用感の高まりにつながった。

[写真8]



写真8 学習委員会の発表

エ スキル学習

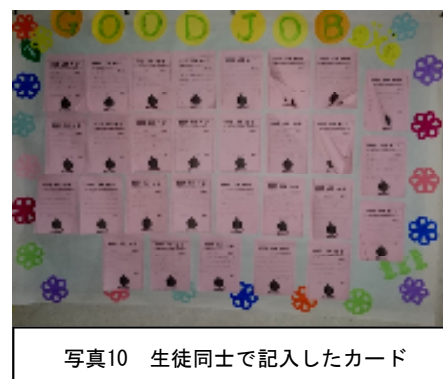
毎週金曜日の帰りの会の時間に、簡単なコミュニケーションをとりながらペアで活動できるスキル学習を行っている。学習をする上で、約束事をしっかりと守り行うように、全校で共通理解を図っている。相手に自分の思いを伝えることの難しさなど、様々なことを感じながら学習を行っている。[写真9]



写真9 スキル学習の様子

オ Good Job カード

生徒の自己肯定感を高めるために、カードの記入を毎週行っている。学級の生徒同士で相手を指定し、一週間を通して観察し、良いところを発見して記入するようにしている。また、職員から生徒へのカード記入は、自己肯定感の低い生徒へ意識して記入するようにしている。また、職員のカードは給食時に放送で紹介するようにしている。[写真10]



(2) 充実感や達成感を味わえる体験活動の推進

ア 「小中連携あいさつ運動」の実施

昨年度からの取組として、「小中連携あいさつ運動」を設定している。中学生（生徒会執行部の生徒）が小学校に出向いて、朝の登校時間を利用して玄関先で小学生と一緒に大きな声でさわやかなあいさつを交わすようにした。中学生が率先してあいさつをすることにより、異年齢に向けても自ら関わる力を育て、また地域に出て、活動することにより、豊かな心を育みながら発信力を高めることができた。

[写真11]



イ 芦北支援学校との交流および共同学習の実施

6月に本校の1年生と芦北支援学校中学部の生徒との第1回交流および共同学習を行った。共に活動する中で、かかわりを楽しむとともに、お互いの理解を深め合うことを目的として活動した。今回は本校から芦北支援学校へ伺い、芦北支援学校の計画に沿って、自己紹介やボールゲーム等の活動を行った。温かく楽しい雰囲気の中の活動であり、1時間という交流の時間がとても短く感じたようであった。交流後の振り返りでは、感想から思いやる態度や尊重し合う態度、相手のことを深く理解しようとする内容を読み取ることができ、生徒一人一人の豊かな心の成長を感じ取ることができた。

第2回は9月末に本校で行うこととなっており、2学期スタート時に実行委員会を設置して、生徒が考え計画した交流および共同学習を予定している。[写真12]



ウ 小中交流会の実施

佐敷小、吉尾小、大野小、そして本校の4校で連携を図り、「あいさつのできる児童生徒」「家庭学習の習慣化」「コミュニケーションのとれる児童生徒」の3点固定を共通実践とした目標連携をとおして6月23日(火)に小中交流会を実施した。中3と小1(水泳)、中3と小3(書写)、中2と小2(図工)、中2と小6(図工)、中1と小4(音楽)、中1と小5(家庭)の内容で実施した。事前指導では、「中学生の活動場面を明確化し役割を持たせて参加する」「マンツーマンに近い形で活動ができるようにする」を念頭において行った。この事前指導の充実につながった結果、諸活動において中学生が主体的に小学生とかわることができた。[写真13]



写真13 小中交流の様子

エ 保育実習の実施

総合的な学習の時間の取組として、3年生を対象に保育実習を行っている。町内の幼稚園や保育園の協力を得て、1クラスを2つに分けて、2日間(午前中)で実施する。昨年度は事前に家庭科の授業で絵本等を作成し、保育実習の中で、作成した生徒自身の絵本を使って園児に読み聞かせを行った。[写真14]

その他にも、園児と一緒にレクリエーションやリレーを行うなど、体を動かす運動が主体であったが、生徒も園児も笑顔いっぱいに活動していた。保育実習を通して生徒たちのいい表情を見ることができ、自己有用感の高まりを生徒の姿で感じ取ることができた。本年度は11月に行う予定である。[写真15]



写真14 園児への読み聞かせ



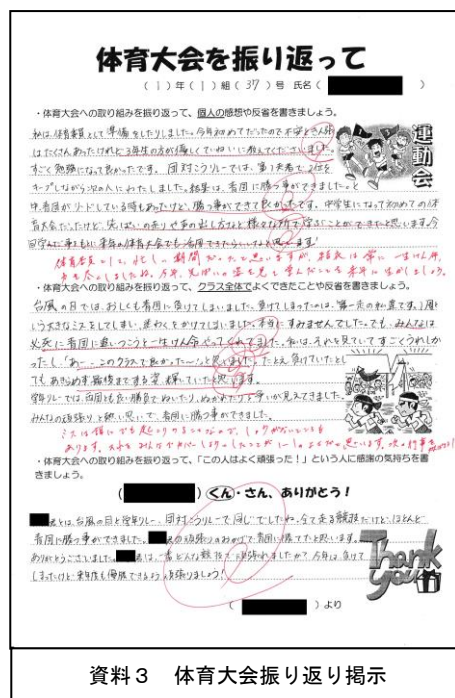
写真15 園児と一緒に活動

4 環境づくり部の取組 [生徒の声、思いを大切にした、お互いをつなぐ環境づくり]

(1) 行事の振り返り (体育大会)

体育大会の後に、「個人として」「クラスとして」のそれぞれの視点から振り返りを行った。「ダンスの練習をがんばって、本番は楽しく踊れた」「負けてしまったけれど、クラスの皆で声をかけ合って練習できてよかった」など、自分や友人の頑張りを認める記述が多く見られた。また、クラスメイトに対しての感謝の気持ちを記入する欄には「演舞をやさしく教えてくれてありがとう」「(係の仕事を)一緒にがんばってできて良かったです。ありがとう！」などの記述が見られた。各担任がそれぞれの生徒にコメントを返し、皆が見ることができるよう、教室後方に掲示している。

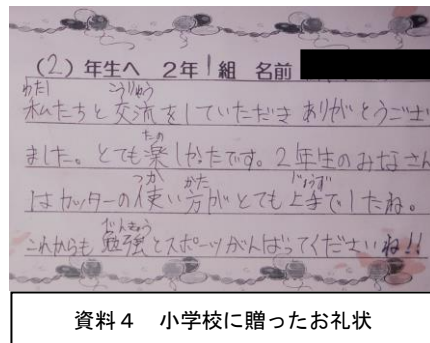
[資料3]



資料3 体育大会振り返り掲示

(2) 小中交流のお礼状の交換

6月に佐敷小学校、大野小学校、吉尾小学校との小中交流会を行い、お礼状を交換した。生徒一人一人が、一緒に学習した児童に、学習の思い出や感謝の気持ちを書いていた。各クラスで一つにまとめて、担当したクラスへ贈った。「カッターの使い方がとても上手でしたね。」「上手に教えることはできませんでしたが、しっかりと話を聞いてくれて、とてもうれしかったです。」などのメッセージを書いていた。各小学校からもお礼状をいただき、各クラスに掲示している。[資料4]



資料4 小学校に贈ったお礼状

(3) 郡市中体連大会に向けてのメッセージ交流

郡市中体連大会の前に、全校生徒でお互いに他の部活動の生徒に対して激励メッセージを書き、廊下に掲示した。直接的な関わりがない生徒もいたが、多くの生徒が各部活動の目標を参考に、「県大会出場目指して頑張ってください」「一回戦を突破できるように頑張ってください」などの温かいメッセージを書いており、その部の生徒がそれを見ることで士気を高めることができた。



写真15 各部への応援メッセージ

また、大会が終わった後には、「応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。悔しい結果となりましたが、皆さんの応援のおかげでいつも以上の力を出すことができました」などの、激励メッセージに対しての感謝の言葉を綴っており、メッセージをとおした心の交流をすることができた。[写真15]

(4) 人権教育コーナーの掲示

「心のきずなを深める月間～いじめを許さない学校・学級を目指して～」の取組の一環として、5月に生徒一人一人が人権の標語を作成したり、夏休みの課題として人権作文や人権ポスターを作成したりしている。人権標語は生徒会で優秀作品を選び、生徒サミットで表彰し、その後は人権教育コーナーに掲示している。これらの作品から「自分たちの意識や行動」「命の大切さや尊さ」「よさを認め合うことの喜び」を表したものなど、見た人が励まされるような作品が数多く見られた。校内に掲示することで、生徒同士の心のきずなを深め、いじめを許さない学校・学級づくりの啓発につなげている。[写真 16]



写真 16 人権教育コーナー

(5) 誕生日紹介の放送

本校では、放送委員会の取組の一環として、「誕生日紹介」をしている。その日の放送当番の生徒が給食時に「今日、誕生日の人を紹介します。○年○組○○さんです。おめでとうございます」という放送をする。放送が流れた後、その生徒が所属する学級で大きな拍手が起こり、温かい雰囲気にもまれる。誕生日が、休日や長期休業であった場合でも、休み明けに放送をし、年間をとおして全校生徒の誕生日を紹介するようにしている。これにより、誕生日を迎えた生徒に対して、生徒同士で、あるいは職員から、「おめでとう」という言葉かけがなされ、「自分が仲間から受け入れられている」という思いをもつことにつながっている。[写真 17]

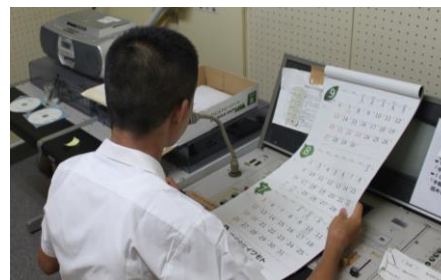


写真 17 誕生日紹介の放送の様子

(6) 読書週間の取組

毎月4週目を「読書週間」とし、朝自習の時間に読書に取り組んでいる。読む本は学校の図書室から借りるよう呼びかけも行っている。図書室前の掲示板には生徒それぞれのおすすめの本の紹介文を掲示している。また、月2回の保護者の方や地域のボランティアによる読み聞かせでは、昔話や絵本、長い小説の一説など様々な物語の世界や文章に触れる良い機会となっている。また、静かに話を聞いたり本を読んだりして過ごすことは、落ち着いた学校生活を送ることにもつながっている。[写真 18]



写真 18 おすすめの本紹介

(7) 情報モラル教育に関する掲示

近年、情報機器を使った人権侵害がクローズアップされている。そのため、学校における情報モラル教育が重要である。本校は、携帯電話やスマートフォンなどの情報機器を利用している生徒が多いため、「ケータイやネットについて考えよう」というコーナーを設け、情報モラル教育に関するリーフレットやポスター、新聞記事を掲示している。主に情報機器の利用時間を守ることや、掲示板やコミュニティサイトなどにおけるマナーを考えさせるリーフレット等を中心に掲示している。また、「守る」という言葉をキーワードとした情報機器使用に関する「佐敷ルール」を生活委員が作成し、各教室にも掲示している。[写真 19]



写真 19 情報モラル教育に関する掲示

(8) 校内環境を整えるための花壇の整備や一人一鉢の取組と保護者との連携

校内環境を整えるため、環境美化委員会を中心に花壇等への花苗の植え付けや水やり、除草作業を行っている。また、昨年12月には、芦北高校との交流と命の大切さを育むことを目的に「一人一鉢」の取組を行った。[写真 20]



写真 20 高校生との交流の様子



写真 21 卒業式で飾られた花

育てた花は、卒業生への感謝の

気持ち、新入生への歓迎の気持ちを表すために会場に飾ることができた。[写真 21]

また、毎週月曜日に行っているPTAの方と環境美化委員の協力で各教室へ花を飾る取組や年2回のPTA主催の美化作業などは、地域の人や保護者と生徒、教職員が共に活動することで家庭との連携や愛校心を育てることができた。夏休みには、各地域で生徒が清掃活動を行い、ボランティアの心の育成を図っている。

(9) 職員研修の充実

水俣病関連の学習を行うために、全職員参加の現地研修を実施し、水俣病資料館の見学や語り部さんの講話を聞くことで、人権に関する基本的認識を深める良い機会となった。また、「第三次とりまとめ」を活用した研修を効果的に進めるために、「第三次とりまとめ」の冊子を縮小印刷したものを全職員に配付し、いつでも手軽に利用できるようにした。[資料 5]



資料 5 縮小版「第三次とりまとめ」

さらに職員の人権感覚を高めるために、講師を招聘して「職員の人権感覚及びケーススタディ」をテーマにした校内研修を行った。

Ⅲ 本年度の研究による生徒の変容と成果と課題

1 生徒の変容

(1) 「充実した学校生活を送るためのアンケート」から

人権教育を通じて育てたい資質・能力についての生徒の変容をつかむため、「充実した学校生活を送るためのアンケート」を平成27年3月と9月に実施した。(下表の数値は4又は3と回答した生徒の割合)

4:よくあてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない

資料6

	No.	アンケート項目(●:重点項目)	H27年3月	H27年9月	差
知識的側面	1	相手のいやがることは、どんな理由があっても行ってはならないと思っている。	95.6	97.1	1.5
	2	人権問題について、命や人権を守るために行動してきた人々の生き方を知っている。	87.7	80.4	-7.3
	3	人権の大切さについては、憲法などに示されていることを知っている。	78.9	82.4	3.5
	4	●自分や他者の人権が侵害されたときに、どのような対処の仕方があるのかを知っている。	63.2	56.9	-6.3
	5	●人権を守るために活動している組織や機関があることを知っている。	80.7	85.3	4.6
価値・態度的側面	6	●他の人のよいところに学ぶことがある。	90.4	91.2	0.8
	7	●自分のよいところを知っている。	68.4	74.5	6.1
	8	●自分と同じように、相手のことを大切にしようとしている。	93.9	98.0	4.1
	9	●考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってもよいと思っている。	99.1	99.0	-0.1
	10	友達同士の間で問題が起きたときに、それに向き合って話し合うようにしている。	84.2	79.4	-4.8
	11	誰かがいじめやいやがらせなどを受けているとき、それを止めるようにしている。	73.7	73.5	-0.2
	12	自分の行動を振り返ったり、自分の言ったことに責任をもつようにしている。	88.6	90.2	1.6
	13	地域や社会の活動に協力し、よりよい社会づくりに参加しようとしている。	72.8	73.5	0.7
技能的側面	14	相手の個性やよさを認めたり、相手の考えや希望などを考えて行動することができる。	92.1	94.1	2.0
	15	誰かがつらい思いをしているとき、一緒に考えることができる。	88.6	87.3	-1.3
	16	●他の人の意見にしっかりと耳を傾けたり、逆に自分の考えを相手に伝えたりできる。	89.5	93.1	3.6
	17	他の人たちと協力して活動することができる。	94.7	94.1	-0.6
	18	差別的な行為を受けたり、うわさ話や陰口などを聞いたときに、おかしいことを指摘できる。	74.6	75.5	0.9
	19	相手と対立したとき、互いの立場を尊重して解決しようとしている。	86.8	85.3	-1.5
	20	様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、あつかうことができる。	90.4	93.1	2.7

20項目中12項目で4又は3と回答した生徒の割合が増加した。「人権教育を通して育てたい資質・能力」の本年度の重点項目では、「自分のよいところを知っている」が6.1ポイント、「他の人の意見にしっかりと耳を傾ける、逆に自分の考えを相手に伝える」が3.6ポイントの上昇が見られた。

しかし、「命や人権を守るために行動してきた人々の生き方」が7.3ポイント、「自分や他者の人権が侵害されたときの対処の仕方」が6.3ポイント、「友だち同士の間での問題が起きたときの話し合い」が4.8ポイントのマイナスとなっている。今後、命や人権を守るために行動してきた人々の生き方に学びながら、人権問題が起こったときの対処の方法や具体的な行動の取り方について、スキルアップを図る取組を工夫したい。

(2) 「自分自身を見つめるアンケート」から

「充実した学校生活を送るためのアンケート」で生徒の自尊感情の項目の数値が低かったため、生徒の自尊感情の変容をつかむために、「自分自身を見つめるアンケート」を平成27年5月と9月に実施した。(表の数値は

4又は3と回答した生徒の割合)

資料7

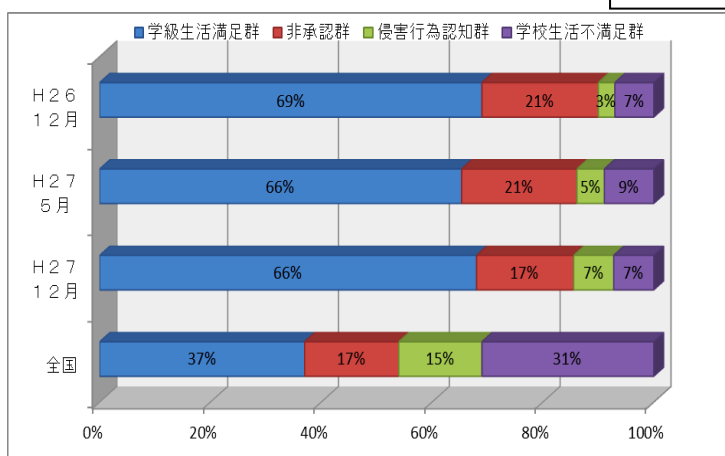
	No.	アンケート項目	H27年5月	H27年9月	差
A 自己評価・自己変容	1	私は今の自分に満足している。	62.2	69.4	7.2
	4	私は自分のことが好きである。	54.5	58.2	3.7
	7	自分はダメな人間だと思うことがある。 ◆◆反転項目◆◆	67.9	62.2	(5.7)
	10	私は自分という存在を大切に思える。	82.1	83.7	1.6
	13	私は今の自分は嫌いだ。 ◆◆反転項目◆◆	42.3	37.8	(4.5)
	16	自分には良いところがある。	75.6	78.6	3.0
	19	自分は誰の役にも立っていないと思う。 ◆◆反転項目◆◆	40.4	28.6	(11.8)
	22	私は人と同じくらい価値のある人間である。	79.5	85.7	6.2
B 関係の中での自己	2	人の意見を素直に聞くことができる。	92.9	92.9	0.0
	5	私は人のために力を尽くしたい。	82.7	84.7	2.0
	8	私はほかの人の気持ちになることができる。	77.6	79.6	2.0
	11	私には自分のことを理解してくれる人がいる。	83.3	93.9	10.6
	14	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任をもって取り組む。	86.5	86.7	0.2
	17	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している。	92.3	95.9	3.6
	20	私には自分のことを必要としてくれる人がいる。	66.0	78.6	12.6
C 自己主張・自己決定	3	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる。	65.4	70.4	5.0
	6	自分の中には様々な可能性がある。	63.5	73.5	10.0
	9	私は自分の判断や行動を信じていることができる。	68.6	75.5	6.9
	12	私は自分の長所も短所もよく分かっている。	77.6	77.6	0.0
	15	私には誰にも負けないもの(こと)がある。	62.2	66.3	4.1
	18	私は自分のことは自分で決めたいと思う。	89.7	93.9	4.2
	21	私は自分の個性を大事にしたい。	81.4	92.9	11.5

22項目中20項目(7、13、19は反転項目のためマイナスが大きい方が自己評価が高い)でプラスとなっている。特に「A自己評価・自己変容」では、全ての項目でポイントの上昇が見られた。

(3)「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」から

資料8

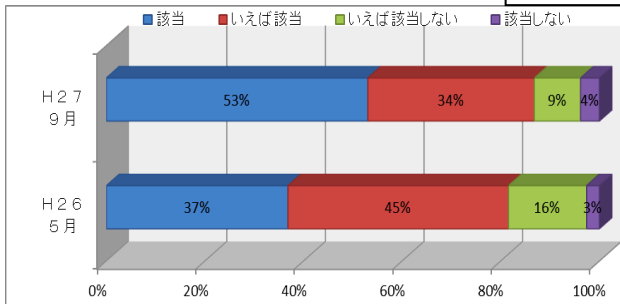
現3年生のアンケート結果を分析してみると、学級生活満足群の割合がやや減少したものの、全国平均と比べるとかなり高い。最上級生になったことで、学校のリーダーとしての自己有用感が増したことで、これまでの様々な取組の成果が現れたものと考えられる。



(4) 「佐敷中生徒アンケート」から

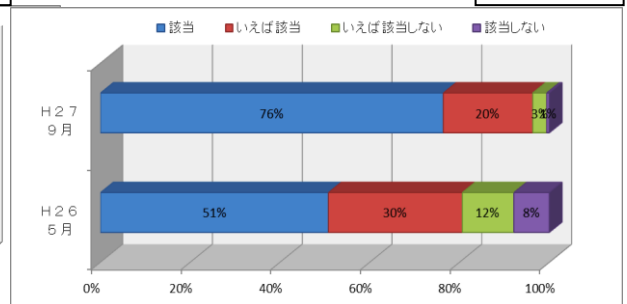
5 あなたは先生にほめられたことがありますか。

資料9



16 あなたは地域の方々に進んで挨拶していますか。

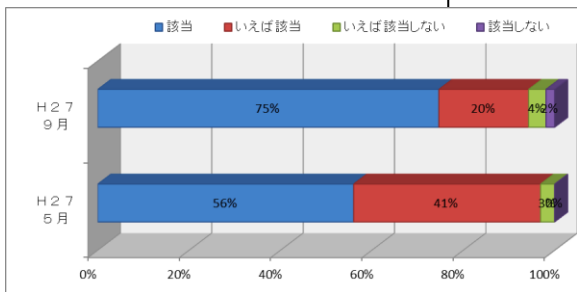
資料10



(5) 「学級生活アンケート」から

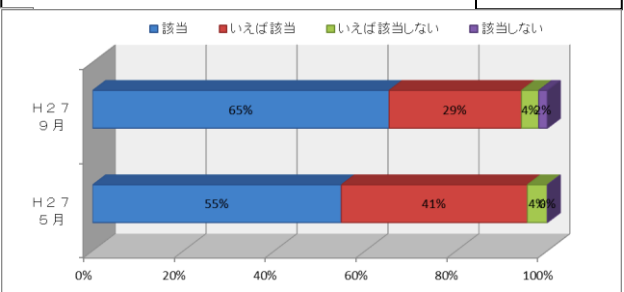
1 学級の生活は、明るく楽しい。

資料11



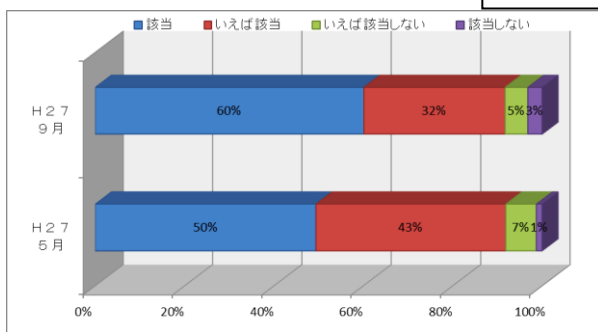
7 無言清掃は時間いっぱい行っている。

資料12



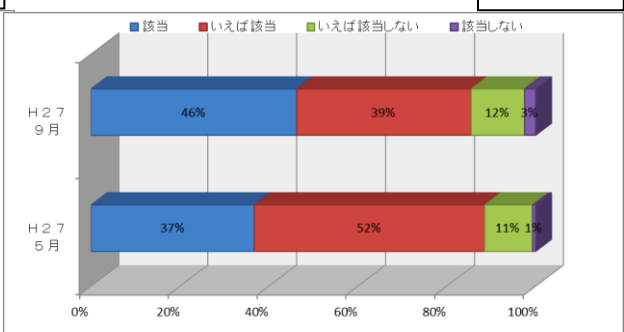
8 級友とは、だれとでも仲良くしている。

資料13



12 学級目標や学級人権宣言を意識して、努力した。

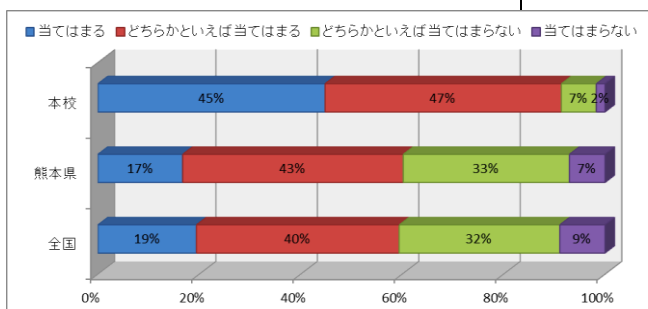
資料14



(6) 「平成27年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙」より

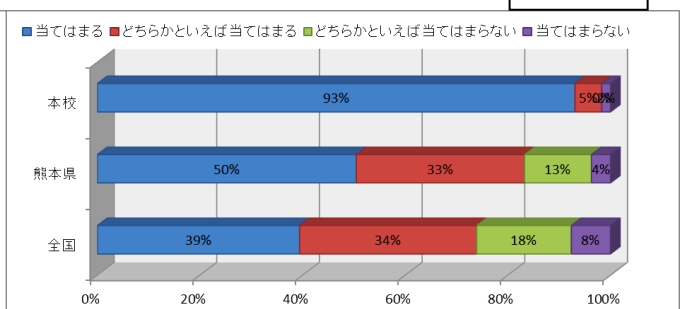
42 授業の最後に、学習内容の振り返りがあった。

資料15



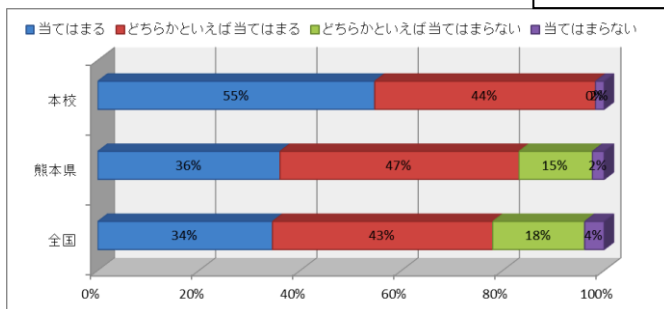
43 授業のノートに、目標とまとめを書いていた。

資料16



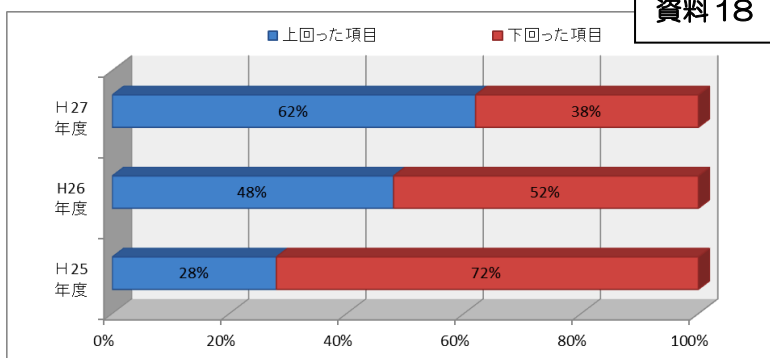
39 生徒の間で話し合う活動をよく行った。

資料 17



(7) 平成25～27年度の「県学力調査」(県平均との比較)より

資料 18



2 成果と課題

(1) 仮説①(授業づくり)について

「自尊感情が高まり、お互いを認め合う態度や学習意欲の向上が見られ、確かな学力と豊かな人間性が身についたか。」

<研究の成果>

- 「先生からほめられたことがある」生徒の割合が増加した。教師の人権教育に対する意識が高まり、生徒の良いところを認めようと生徒の発言や行動を受容的・共感的に受け止めたことにより、生徒の自尊感情や自己有用感が高まってきている。[資料9]
- 授業の中での目標(めあて)とまとめの提示、学習内容の振り返り、生徒同士の話し合い活動においては、以前よりも意欲的に行われるようになった。[資料15・16・17]
- 「人権が尊重される授業づくりの視点例」を参考に作成した「授業デザイン」を全職員で共通実践したことにより、生徒一人一人を大切にする具体的な視点や手立てを共有することができ、人権教育の視点に立った授業や学習活動づくりを行うことができた。
- 「学習者五か条」を意識して授業を受ける生徒が増加していることから、生徒の学習意欲の高まりを感じる。また、標準学力調査や県学力調査の結

果から、徐々に学力が向上してきている。[資料 18]

<今後の課題>

▲発表しやすい雰囲気づくりや机間指導等の取組を行ったが、生徒が自信をもって自分の考えを発表できるところまでは十分に高まっていない。今後も、安心して発表できる人間関係づくり、雰囲気づくりの工夫を行っていく必要がある。

(2) 仮説②（人間関係づくり）について

「適切なコミュニケーション能力が高まり、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性が育まれたか。」

<研究の成果>

○授業や行事、学校生活全体で生徒同士をつなぎ、自他の良さを認め合う機会が増えたことにより、学級の中での良好な人間関係を築くことができた。

[資料 11・13]

○「心のきずなを深める生徒サミット」や「人権宣言作成」などの生徒会（委員会）や学級を生かしながら生徒一人一人の人権感覚を高めるための取組を行ってきたことにより、積極的に目標達成にむけて努力しようとする生徒の割合が高くなった。[資料 14]

○生徒会テーマである「地域への発信」を生徒自身が意識したことにより、地域の清掃ボランティアや行事に参加する生徒が増えた。それに伴って、地域の方々にあいさつする生徒の割合が増加した。[資料 10]

<今後の課題>

▲良好な人間関係が築けているにもかかわらず、お互いに自分の思ったことを素直に伝えることが十分にできていない生徒が多いので、更に人間関係づくりのスキル活動の取組等を工夫していく必要がある。

(3) 仮説③（環境づくり）について

「お互いを認め、大切にしようとする雰囲気が醸成され、自己肯定感が高まったか」

<研究の成果>

○Good Job カードやいろいろな活動後の振り返り等の自分以外の他者のいいところを認めて書いた掲示物を見ることで、自己肯定感や他者理解の高まりにつながった。

○「みんなのために」「誰かの役に立ちたい」など、自分の行動を肯定的にとらえる生徒が増加してきた。そのことが、無言清掃に時間いっぱい取り組んだり、学校行事に積極的に参加したりする生徒の増加につながった。

[資料 12]

○「花ボランティア」や「読み聞かせ」など、地域の方々と協力して取り組む活動を継続して行うことにより、自分以外の人への感謝の心を持つなど自尊心を高めることにつながっている。

<今後の課題>

▲教室環境をはじめ、校舎内のいろいろな掲示物の工夫をしてきているところであるが、さらに温かみがあり、それを見ることで生徒一人一人が勇気をもらうような掲示物を今後も考えていきたい。

(4) 「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を連動させた取組について

<成果として考えられる生徒の姿>

○中体連陸上大会に向けての練習に多くの生徒が意欲的に取り組んだり、自主的に応援リーダーに立候補して生徒全体をまとめたりする姿が見られた。

<連動させた取組>

授業づくりにおける生徒の発言を引き出す工夫や生徒同士のつながりをつくる取組を継続して行ったことで、まわりを大切にしながらも自分の意見を言える生徒が少しずつ育ってきたためと考える。

人間関係づくりにおける友だちの頑張りを認める取組や、環境づくりにおける生徒の思いを大切にした掲示等の取組を行ったことで、友だちの頑張りに自分も応えたいと思える生徒が育ってきたためと考える。

<今後の課題>

▲授業の中で自信をもって発表できない生徒が多かったため、スキル学習等に取り組んできたが、まだ顕著な変容が見られていない。今後も根気強く取組を継続し、生徒の自信を高めていきたい。

(5) 研究全体を通して

これまでの取組により、学校生活に満足感を感じたり、相手のことを考えた言動を心がける生徒が増えてきた。また、職員間においても授業中や学校生活で気付いた生徒の様子について話すことが多くなった。それに伴い、生徒と教師との会話が増え、生徒をほめる機会も多くなってきた。このことは、すべての教育活動で「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を意識し、全職員で目標とする生徒の育成に取り組んできた結果である。特に授業においては、「人権が尊重される授業づくりの視点」を明らかにし、人権が尊重される環境づくりを基盤として、「生徒一人一人を大切にした授業デザイン」を共通して取り組んだことにより、人権が尊重される人間関係づくりを有機的につなげることができてきた。

しかし、生徒の中には、自分に自信がもてなかつたり、自分の思いを伝えることが苦手であったりするところがまだまだ見受けられる。これまでの自分も他の人も大切にしている取組をさらに進め、「自信に満ちた生徒の笑顔」をめざした実践を積んでいきたい。